

第1章 計画の基本的考え方

1 計画策定の趣旨

○増加する高齢者人口と平成27年を見据えた計画づくり

65歳以上の高齢者人口は増え続けており、平成17年10月1日現在の能代市と二ツ井町の高齢者人口は18,476人であり、高齢化率（全人口に占める65歳以上の人口割合）は28.7%となっております。

これは全国平均（平成16年10月1日現在）の19.5%と比較すると9.2%増、秋田県平均（平成17年7月1日現在）の26.7%と比較しても2.0%増となっております。この地域はかつてない高齢社会を迎えることとなります。

また、第3期計画策定にあたっては、10年後の平成27年には、団塊の世代（昭和22年～24年生まれの第1次ベビーブーム世代）の人々が65歳以上の高齢期を迎えることを見据えた計画づくりが必要です。日本経済の高度成長期を担ってきたいわゆる団塊の世代が高齢期を迎えたときは、生活様式や価値観も多様化し、高齢者像も大きく変わっていくと考えられます。そのため、新たな高齢者像を視野に入れたサービス構築を進めることが課題となると考えられます。

○介護保険制度改革（より質の高いサービスを目指して）

平成12年4月から実施された介護保険制度は、措置から契約への移行、選択と権利の保障、保健・医療・福祉サービスの一体的提供などをすすめ、高齢者介護のあり方に大きな変革をもたらしました。その間、要介護認定者数、介護サービス利用者数、介護サービス事業者数は大幅な増加となっております。

今後は、制度の基本理念である高齢者の「自立支援」、「尊厳の保持」を基本としつつ、制度の持続可能性を高めながら、より質の高いサービスを提供していく仕組みづくりが求められています。

介護保険制度施行後5年間の状況の検証と新たな課題に対応した介護保険制度改革が行われます。基本的視点には、「制度の持続可能性」、「明るく活力ある超高齢化社会の構築」、「社会保障の総合化」を目指すというものです。

主な改革内容は、①予防重視型システムへの転換②施設給付費の見直し③新たなサービス体系の確立④サービスの質の確保⑤介護サービス基盤のあり方の見直しなどとなっております。

以上のことを踏まえ、新市における老人保健福祉並びに介護保険事業計画の方向性を示すとともに、制度改革を踏まえた介護保険事業の安定的運営を目的として、「能代市老人保健福祉計画・介護保険事業計画」を策定します。